（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	尼崎市立あこや学園			
○保護者評価実施期間	令和７（2025）年12月４日		～	令和８（2026）年１月13日
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	34	（回答者数）	30
○従業者評価実施期間	令和７（2025）年12月３日		～	令和７（2025）年12月13日
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	28	（回答者数）	22
○事業者向け自己評価表作成日	令和8（2026）年2月9日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	家族支援の充実、柔軟な対応	・こどもの理解を深め、実践を交えあそびや関わり方の工夫を直接お伝えする親子登園、保護者研修、さまざまな懇談等子育てを支援する機会を提供している。 ・保護者の物理的負担を少なくするために、送迎バスの位置情報の確認や、出欠の連絡がより便利になるアプリを導入した。 ・行事の参加を通じて継続的にきょうだい同士交流の機会が持てる「ともだちつくり会」を発足した。	・ニーズが増えている療育時間の延長について、職員の配置や頻度、時間などを検討する。 ・きょうだいへの支援については、交流の機会を継続し、次のステップとしての取り組みを検討する。
2	多職種連携による支援	・アセスメントや個別支援計画の作成は、様々な職種の職員で話し合い、作成、確認を行い日々の支援に生かしている。 ・言語聴覚士や公認心理師による保育への参加の機会を設け、より多角的な視点で発達支援を充実させている。	・スキルアップを図るための研修や勉強会、振り返りや役割分担について、チームでの連携の方法、システムを見直す。
3	地域に向けた情報発信の充実	・園庭開放は園児と交流できる時間にも設定した。 ・「つなぐ森展」「amuamu」など、地域で行われている市民活動イベントへ参加し、こどもたちの活躍の場を広げつつ啓発に取り組んでいる。 ・公開療育（オープンあこや）や運動会行事への地域住民参加を実施した。	・園庭開放については、小規模保育事業所などの施設を含めた近隣の施設へと広報の範囲を広げ、利用を拡大する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・施設の老朽化。	・平成19年移転後20年近く経過しており、バスなど移転前から利用している設備もある。	・早めの点検により予防的に対策を行う。 ・使用する通園バスのサイズや台数の変更、送迎方法の見直し等、予算化に向けて調査を行う。
2	・自立支援協議会、地域の子育て支援について職員が知る機会が少ない。 ・尼崎市としての取り組みへの意識が弱い。	・協議会等への参加者が、取り組みを職員全体に周知する機会や情報発信の方法に課題がある。	・尼崎市の状況について再確認し、あこや学園として主体的に取り組める仕組みを検討する。
3	・紙ベースの記録が主となっており、過去のデータ（保育記録など）の検索に時間を要する。 ・IT化に予算的な限りがある。	・IT、ITC、システム化が遅れている ・療育日誌がシステム化されていない ・データの保存、共有の効率化	・アプリの連絡機能を用いたコミュニケーションの拡充を行う。 ・計画性をもってSNS発信をする。個人情報の取り扱いに留意し、必要最小限の範囲で個人が特定されない方法や会員限定のコンテンツの活用を検討する。 ・法人で導入したクラウドを用いて、記録のデータ保存、システム化に取り組む。